第 24 号　～ サレジオ会宣教ニュース ～　2010 年 12 月 11 日

イエスへの愛の歌を歌うことは、何とすばらしいことか！

親愛なるサレジオの宣教師、サレジオ・ミッションの友人の皆さん、

2010 年最後の月に、地上のすべての人を救うために来られるイエスを待つこの時、心からのあいさつを送ります。

2010 年に、前線で働く多くの宣教師と会い、42 人の新たな宣教師の派遣に力添えし、ヨーロッパ大陸で初めて福音を聞く人々にイエスを告げる宣教に同伴する機会を下さった主に感謝します。宣教の体験を伝える数多くの機会を与えられたことに感謝します。サレジオの使命をより効果的に果たすための、青少年司牧、宣教、広報の各部門の協同作業は、すでに多くの益をもたらしています。また私自身、宣教促進の分野でコミュニケーションの意識を高めるという回心も体験しました。できるだけ毎週、カリエロ 11 のブログに、出会いや出来事について分かち合いを載せるよう努力しています(http://say.sdb.org/blogs/c11)。2010 年の一人の新しい宣教師のおかげで、私たちのホームページのアゴラ欄に、宣教師養成のための、ベトナム語での 30 モジュールの欄が出来ました(http://say.sdb.org/agora/index.php?board=17.0)。広報部門の仲間のおかげで、世界宣教の日のための視聴覚資料は毎年、質を高めています。最後にご紹介したいのは、アフリカの証しを YouTube ANSchannel で聞いたことです。(http://www.youtube.com/user/ANSchannel#p/u/3/79Cq9ePEdll　注:サレジオ会ニュース通信部門 ANS は YouTube に登録しています)。最近ヨーロッパに来たこの若い修道士は、イエスへの愛の歌を歌うよう若者たちを助けたいという夢を分かち合ってくれます。歌のメロディーを忘れてしまった人もいれば、歌詞を忘れてしまった人もいます。しかし彼は、イエスへの愛の歌を歌うため、その人たちと共に歩もうとしています。

私も再び、毎日、イエスへの愛の歌を歌いたいと思います！

宣教顧問　ヴァツラフ・クレメンテ神父

プロジェクト・ヨーロッパのための宣教師募集

管区 - 国	必要な言語	活動・要件
AUS - オーストリア	ドイツ語	ユースセンター、オラトリオ、小教区、移民のための活動、サレジオ青少年運動
BEN - ベルギー北	フラマン語	移民のための活動、国際的な共同体作り
BEN - オランダ	オランダ語	移民のための活動、国際的な共同体作り
CEP - ブルガリア	ブルガリア語 ロマ語	ジプシーの人々のための活動、国際的な共同体作り
FRB - フランス	フランス語	移民のための小教区の司牧
FRB - ベルギー南	フランス語	学校、ユースセンター（ブリュッセル）
GBR - 英国	英語	学校、黙想の家、移民のための活動、アフリカ・ヨーロッパの若いサレジオ会員求む
IME - アルバニア・コソボ	アルバニア語 イタリア語	第一次福音宣教、人材不足、特に修道士
IRL - アイルランド	英語	学校、ユースセンター、小教区、大学生のための使徒職

オランダの宣教師より

オランダに派遣されるとわかったとき、びっくりしました。何も言うことはありませんでしたが、このオベディエンツァはどういうことだろうかと思いました。オランダは、私のような若い神学生にはお勧めできないところだ、と多くの人が言いました。ヨーロッパ、特にオランダの宗教事情についてのさまざまな説明を聞いて、私は怖くなりました。自分が長くもたないのではないかと。

その人たちの言ったことは、彼らの視点からは本当のことでしょう。実に、私たちの前には大きな挑戦が横たわっています。しかし、それを避けたりあきらめたりするなら、この世界で、いったい誰が若者たちと共にその霊的旅路を歩むというのでしょう？　ここの若者たちにとって、「霊的」という言葉は興味をひかないかもしれませんが、これは事実です。「霊的」なものが欠けており失われているのです。或いはもっと正しく言うなら、彼らはそれを盗られたのです。誰かが、この貴重な宝を指し示さなければ、若者たちは決して気づかないでしょう。

この世の人生で、神様なしには私たちは本当に幸福にはなれません。すべての人にとって、神だけが決して消えることのない唯一の喜びだからです。神が喜びで、この若者たちを愛しておられるなら、どうして私がみ旨に対して「いいえ」と言えるでしょう？　私がここにいることがみ旨であるなら、私はここにとどまり、自分自身であるべきです。自分がほかの場所にいればできると思うほどのことを、ここではできないかもしれません。しかし、ここで神の愛のしるしであることは、すでに大きな挑戦です。

ここでは、私たちの努力が何の実りももたらさないようにも思えます。私たちの期待することは手が届かないことのように思われ、いつもの疑問が浮かんできます。なぜこんなことをしなければならないのか？　なぜここにいなければならないのか？　ここには希望がない……。これは不満と落胆の表明です。しかし、なぜこのように感じるのでしょうか？　実は、答えは、信仰の足りなさなのです。このような状況では、共同体生活が非常に大切です。受け入れられ、共同体の一員であると感じることは本当に大切で、サレジオ会宣教師として生きるためのライフラインだとさえ私は言えると思います。結局、私たちが共同体なのですから！

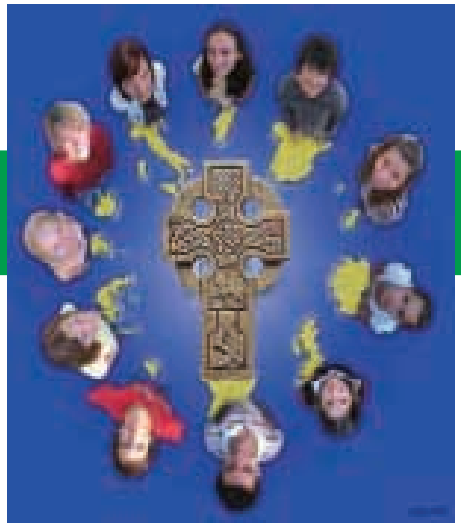
私たち宣教師は、共同体が自分たちの世話をしてくれることをしばしば期待します。新人ですし、その新しい文化についてすべて学びなおさなければならない「子ども」に戻るからです。それは本当です！　しかし、新しい宣教師と支部共同体のあいだのコミュニケーションと開かれた心の不足は、皆の善意を台無しにすることがあります。

この簡単なふり返りをもって、私の共同体に感謝したいと思います。わが家にいるように感じさせてくれ、そしてこの愛すべき国でのサレジオの使命を分かち合ってくれることによって、私に信頼を示してくれました。

アンドレアス・ジュバルス神学生
インドネシア出身、在オランダ宣教師

宣教地ヨーロッパ

SDB と FMA の宣教部門は、「現代ヨーロッパにおけるサレジオ・ミッションの前線での宣教、キリストを告げる第一次宣教」をテーマに、2010 年 11 月 4 日から 10 日にかけ、プラハで研修週間を開催しました。福音を告げる人々の養成に大きな注目が向けられました。彼らは、さまざまな状況に「創意豊かな想像力と開かれた心」で適応しながら、隣人に対して尊敬と信頼の姿勢を常に保つことができなければなりません。また、先の 11 月 26 日から 28 日にかけ、総長はヨーロッパの管区長との3度目の会合を開き、プロジェクト・ヨーロッパにおいて取り組んできたことの評価を行い、将来に向けた活動の共同の方向性を考察しました。



Salesian Missionary Intention

ヨーロッパのサレジオ会のために

ヨーロッパの３地域のサレジオ会が忍耐と勇気をもって福音宣教への取り組みを新たにしますように。消費主義、世俗化社会という背景のもと、プロジェクト・ヨーロッパへの固有の貢献を果たせますように。

私たちのカリスマの将来は、 若者たちと共にあること、 明確な福音宣教の提案をもって若者たちと共に歩めること、 忍耐をもって、 若者一人ひとりをサレジオ会奉献生活へと招くことができることのうちに、 会員が信仰を分かち合い、 熱意を新たにすることにかかっています。 ヨーロッパの管区長たちの、 総長と最高評議会との3回目の会合が打ち出した行動の指針が会員たちに喜んで受け入れられ、 私たちのすべての使徒職において実を結びますように。